

『受験生になる』 ゴールデンウィーク 集中講座

～『受験生』になる～

入試まで10ヶ月。

到達点の入試本番では「入試問題」と、どのように向き合えばよいのか。前期・夏季・後期・冬季・直前と学習を進めていく上で大切なことは、「本番のイメージ」＝「入試問題」を意識しながら取り組むことです。

入試問題に立ち向かうための課題は教科によって様々です。本講座では、入試のイメージをつかむことと、習得しなくてはならない分野や受験技術を俯瞰することで、「受験生」としての意識を高めていきます。

【授業日程および会場】

受講日	5月3日（火）		5月4日（水）		5月5日（木）	
会場教室	あざみ野校		新百合ヶ丘校		あざみ野校	
クラス	6-1	6-2	6-1	6-2	6-1	6-2
① 13:00～14:20	国語①	算数①	理科①	算数③	国語③	社会③
② 14:30～15:50	国語②	算数②	理科②	算数④	国語④	社会④
③ 16:00～17:20	算数①	理科①	社会①	国語①	算数③	国語③
④ 17:30～18:50	算数②	理科②	社会②	国語②	算数④	国語④

【会費】（税込、テキスト代を含む）

一般会費 33,480円

教室生会費 30,240円

【申込方法】

* 教室窓口で、申込書をご記入のうえ、ご提出ください。
（会費は申込書提出後、指定の銀行口座にお振り込みいただきます。）

* 一般の方の受講クラスは、ご相談の上決めさせていただきます。

アクセス新百合ヶ丘校 アクセスあざみ野校

講座学習内容～国語科

学習のねらい

文章の種類別の読解学習を仕上げる前期、それをふまえ、設問との関連と時間意識を学ぶ夏季授業、実戦的な入試問題への取り組み方と弱点補強を行う後期、得点力を確かなものへと近づける直前期、そういった通常授業における取り組みの中で、多くの子どもたちが苦手意識を持つ記述問題。国語における「記述力」とは、語彙力・表現力・要約力のみならず、読解力や思考力などを含めた国語の総合力であると考えます。したがって、ただ、数をこなすだけの学習では「記述力」が養えるものではありません。この講座をきっかけに苦手意識克服の端緒をつかみ、「記述」において、大切なことは何なのかを認識して欲しいと思います。そして、通常授業における取り組みが、なぜなされているのかにも意識が向くような学習姿勢につながることを期待しています。

国語授業内容

- | | |
|-----|-------------------------------|
| 第1回 | 説明的文章
文同士のつながりを捉えてまとめる |
| 第2回 | 説明的文章
文章構成に留意してまとめる |
| 第3回 | 物語文
できごとと心情のつながりに気をつけてまとめる |
| 第4回 | 物語文
物語の構造を捉えてまとめる |

授業の進め方、授業への取り組み方

説明的文章と物語文における記述問題を読み解いていきます。入試問題を見据えて、基本・応用・実戦という、段階を踏んだ取り組みをします。

記述力は、読解力と表裏一体です。どのような点に着目して、どのように捉えるのか、そのために必要な知識の確認や習得を行います。

また、記述問題自体への取り組みは、この時期では「何度も書き直して仕上げること」が大切です。ノートを使用し、ポイントをおさえたり、要素を加えたり、文意が通じるように書き上げていきます。

講座学習内容～算数科

学習のねらい

算数の入試問題は、速さとつるかめ算、図形と比などのように、2つ以上の基本事項を組み合わせた問題が多く出題されます。その絡んだ基本事項を解きほぐすことがうまくいかないために、「難しい」と思いがちです。本講座では、問題文中に書かれた内容を読み、条件整理をして、問いに答えるために「必要なこと」は何なのかをとらえる。そのことを踏まえた上で、「使うべき図」を自分自身で選んで使えるようになることを目的とします。

算数授業内容

第1・2回・・・「線分図を書こう！」
第3・4回・・・「面積図を書こう！」

授業の進め方、授業への取り組み方

テキストは、初めに線分図や面積図等の条件整理に必要な図の書き方を例題で示し、実際に自分で書きます。その後、演習問題を通して、必要な図を書いて考える作業の定着を図り、理解度を深める構成になっています。手を動かして、目に見える図を書くことの重要性を体感できるようにフリーハンドで図を書きましょう。

家庭学習の取り組み方

新たに類題を解く必要はありませんが、学習した内容を定着させるために、授業中に解いた問題の復習は必要です。また、復習するためには授業をしっかり受けることが必要です。授業の内容、特に、「何が重要か」を必ず振り返るようにしましょう。

講座学習内容～社会科

学習のねらい

受験で必要なのは、満点をとることではなく、合格点をとることです。合格点をとるためには、できなければならない問題を確実に正解することです。つまり、基本的な問題で確実に得点することです。

社会科で、最も基本的な事からは、都道府県です。しかしながら、都道府県や都道府県庁所在地について、その位置や漢字で書くこともふくめて、確実に得点できると胸をはって言える人は、どれだけいるでしょう。春季授業の小テストの第一回は、都道府県と都道府県庁所在地でしたが、受験生が受けたテストと言える結果だったでしょうか。

「受験生になる」ためには、まずは、社会科の最も基本である、都道府県について、この機会にしっかり身につけよう、というのが、今回の講座のねらいです。

社会授業内容

- 第一回 (とにかく都道府県)
都道府県とその位置・形、
都道府県庁所在地
- 第二回 (とにかく都道府県)
都道府県に関連する事から

授業の進め方、授業への取り組み方

都道府県とその位置、都道府県庁所在地について、正しい漢字で書けることもふくめて、確認します。漢字などで、間違いやすい都道府県などについても注意をうながします。

第一回では、都道府県とその位置、都道府県の形、都道府県庁所在地についてあつかっている入試問題をとりあげ、受験でいかに都道府県などの基本的な事गराराが大切かを実感してもらいます。

第二回では、都道府県に関連した事गराराや、そこから派生する事गराराについての入試問題をあつかいます。入試問題と向き合いながら、各都道府県の特徴などについて、理解を深めてもらいます。各自、地図帳を必ず持参してください。

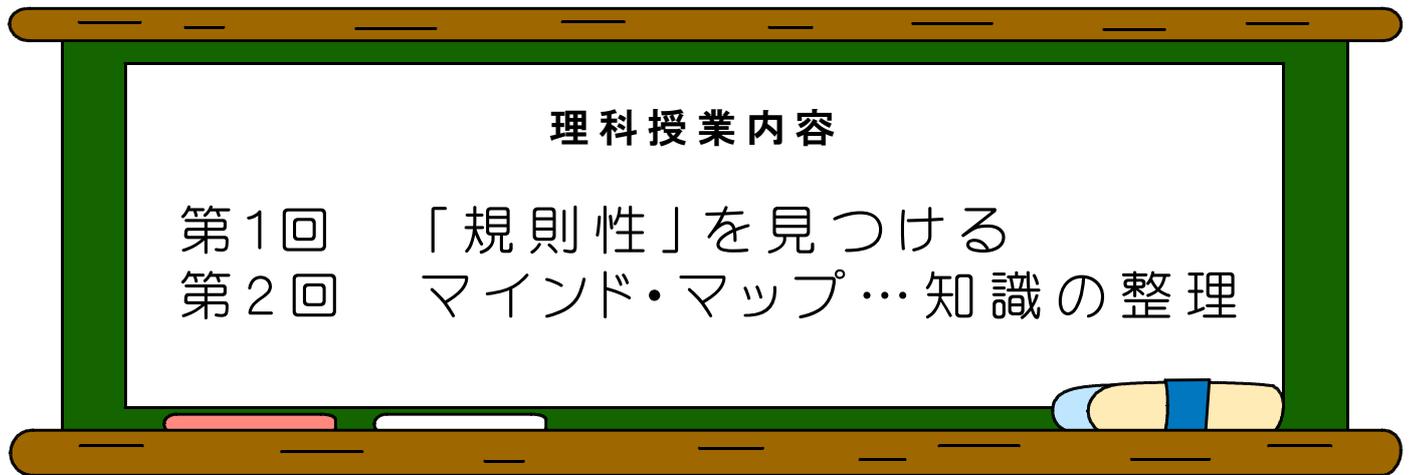
講座学習内容～理科

学習のねらい

「中学入試の理科は難しい」と思っている人は多いのではないのでしょうか。難しいというイメージがつきまとう、その理由の1つに「学習分野の多様さ」が挙げられます。公立高校の入試では指導要領からの逸脱が許されず、すべての問題は教科書の内容から出題されます。一方、中学入試にはそんな制約がありませんから、教科書内容を拡大解釈して「うちの学校を受験する生徒なら理解できるだろう」との思いから、結果的に高度な思考力を要する問題も多く出されています。

では、対策はないのでしょうか？確かに、これをやれば大丈夫というような「打ち出の小槌」はありませんが、理科の勉強の核心である「基礎知識を固めること」、「科学的、論理的に考えること」、この2つを意識できるかできないかで、今後の学習効果に大きな差が出ることはまちがいありません。

本講座は、「関連づけによる知識の整理」、「規則性の発見」をテーマに、入試本番までどのような姿勢で理科と向き合っていたらよいかを考えます。



授業の進め方、授業への取り組み方

知識が中心となる分野に関しては講義を中心とし、断片的な知識ではなく、1つの知識から次の知識へと有機的に関連づけて理解していくことの大切さを伝えていきます。

理科の計算問題のほとんどは、「比例関係」などの規則性が前提になっています。グラフや表からその規則性をきちんと読み取り、解答へと導くための手順を考えます。この種の問題に関しては、まず問題に取り組んでもらい、そのあと解説する流れになります。